# GROW

## 世界が憧れるまち〝小田原〟

広報小田原特別編

2023年度版

小田原市が目指す2030年の姿
「世界が憧れるまち“小田原”」の実現に向け、
まちが育っていく-GROW-ようすをお伝えします。

西湘バイパス高架下の海に続くトンネル

実施日:2023年7月5日
場所:久野小学校集会室

# 2030年の 小田原の未来を考えよう

## ～久野小6年1組、よりよい小田　原のために市長へ提案します！～

久野小学校6年1組ではこれまで、小田原市のまちづくりの指針を示す第6次小田原市総合計画「2030ロードマップ1.0」について学んできました。今回「2030年の小田原の未来を考えよう」をテーマに、児童が提案書を作成し、市長に直接提案を行いましたのでその様子をお伝えします。

たくさんの
貴重な提案を
いただきました

小田原市長 守屋輝彦

### 小田原城の入場料を半額に

小田原城の入場料を今の半額にすれば、小田原にもっとたくさんの人が来ると思います。入場料の一部や募金で工事の資金を集め、小田原城の階段の段差を低くすれば高齢者からの人気も高まると思います。小田原の観光を盛り上げるために、小田原の良さをどんどん発信していきたいです。

観光

**市長**

小田原城天守閣の入場者数の目標は75万人です。皆さんが自ら小田原の魅力を発信していくことは、大きな力となります。

### スポーツできる場所を増やして健康に

年をとっても、スポーツをすることにより健康でいることができます。高齢者が元気でいれば介護の負担が減り、介護の人手不足も解消されます。そこで、小田原でスポーツが楽しめる場所をもっと増やしたいです。体育館や公園、バスケットコートなど、あまり使われていない場所を利用しても良いと思います。

スポーツ

**市長**

健康で長生きするためにスポーツは大切です。ごみ拾いもスポーツになることを知っていますか？地域のためにもなり、もっと楽しい小田原になると思います。

### 妊娠、出産、子育てに温かい社会を

子育て中のお母さんたちの不安を相談する場所づくり（サロン）や、教育にかかるお金の軽減、ひとり親家庭の子育て費用の補助などを行ってみてはどうでしょうか。そんな温かい社会では誰もが安心して生活することができ、安心して生活できる社会は少子化対策にもつながっていくと思います。

子育て

**市長**

少子化対策の一つとして、安心して生み育てる環境づくりは大切。お母さん同士の不安をなくすサロンは良いですね。

### ごみを減らして魅力あるまちにしよう

小田原は海も山もあり、都会にも近いのが魅力です。でも、景観がごみで乱れていると、観光客に小田原の良さが伝わりづらいと思います。そこで、ごみの３Ｒ（リユース･リデュース・リサイクル）を実現するために、スタンプカードの導入を提案します。捨てる前のごみが軽いほどスタンプを押してもらえるもので、たまったら買い物で利用できます。

環境

**市長**

川に落ちたごみが海に流れ着くと、やがてマイクロプラスチックとして海洋汚染につながります。魅力的なまちにするためにも、ごみを減らすのは大切なことですね。

### 子育て支援で有名な小田原に

親子同士で交流できる場所や機会が増えれば、子育てで抱える悩みが減るのではないでしょうか。その会場は、車を運転できない人のために、公民館などの身近なところを使わせてもらいます。また、大学の奨学金返済の負担が大きく、出産を控える人がいるそうです。そこで、小田原では結婚したら奨学金は返済不要にすれば、子育てしやすいまちになると思います。

子育て

**市長**

小田原市で生まれる赤ちゃんは、20年ほど前は約2,000人でしたが、今はその半分です。親子が交流できる場所を増やすのは、子育てしやすいまちづくりで大切なことです。

### 自然を生かして人口を増やそう

小田原の豊かな自然を体験できる無料キャンペーンを企画すると良いと思います。また、自然のなかに誰でも利用できるバレーボール会場を作れば健康にも良いし、小田原の魅力をPRする機会にもなります。そうすれば小田原への移住者が増加して税収が増え、運動できる場所も増え、キャンプに詳しい人も雇えるかもしれません。

環境

**市長**

小田原が自然環境に恵まれたまちであることを知らない人もいます。ごみを捨てないなど、一つ一つの行動が魅力あるまちづくりにつながります。

### 楽しんで小田原の未来を守ろう

私たちが考えたマスコットキャラクター「おだまる」のごみ箱を作ります。ごみを入れると提灯が光る仕組みで、ビーチクリーン会場に設置すれば、楽しく参加できると思います。また、災害対策として、市のアプリ「おだわら防災ナビ」に割引クーポンを付けるなど、活用してもらう仕組みを工夫したいです。

防災

**市長**

おだわら防災ナビに割引クーポンや子育て情報などの特典をつけるというのは、平常時から使ってもらうために良い案ですね。

### 介護で疲れる人を減らそう

介護士を増やすためには、給料を上げる必要がありますが、そうすると介護サービスの料金も上がってしまいます。そこで、市から給付金を出すことを提案します。介護で疲れる人を減らせるだけでなく、このまちに住みたいという人が増えれば税収も増加し、小田原の介護サービスがより充実するサイクルが生まれます。将来介護が必要とならないように、私たちも今から健康な体をつくります。

健康

**市長**

健康と病気の間にある状態を「未病」といいますが、子どものうちから病気にならない体をつくっていくことも、介護士不足対策で大切なことですね。

久野小６年１組では、「小田原のより良い未来のために、自分たちは何ができるのか」ということを学んできました。こうしたなか、まちづくりについて守屋市長に直接提案する機会をいただき、より意欲的に取り組むようになりました。大切にしたのは、自分のわがままではなく、周りの人も幸せになる提案とすること。市から全員に配布されている学習用端末を駆使して他自治体の状況を調べたり、皆で真剣に話し合いを重ねたことで、私の想像を超えるすばらしい内容になりました。この経験を生かし、自分たちの住む国や地球にも興味をもって生きていってほしいと思います。

６年１組担任　久保寺 桃子

# 2030年の小田原の未来を考えよう

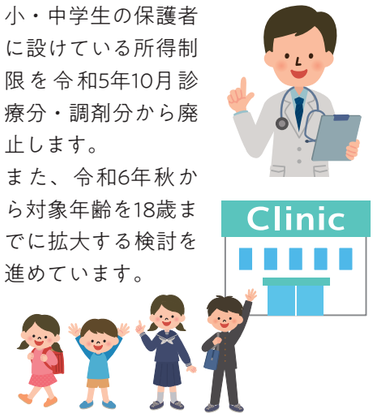
～子どもたちから提案された各分野において
未来に向けて小田原市が考えるまちづくりの一部をご紹介します～

子育て

## 小児医療費助成の拡大

### 子育てがしやすいまちに

小・中学生の保護者に設けている所得制限を令和5年10月診療分・調剤分から廃止します。
また、令和6年秋から対象年齢を18歳までに拡大する検討を進めています。




健康

## 健康増進拠点施設の整備検討

### いつまでも健康でいたいから

市民一人ひとりの健康意識を高め、必要に応じて専門家による支援を受け、健康管理や運動する習慣の定着に取り組むことができる健康増進拠点施設の整備について調査・検討しています。

スポーツ

## スポーツ施設のあり方検討

### いつまでも運動できる環境が欲しいから

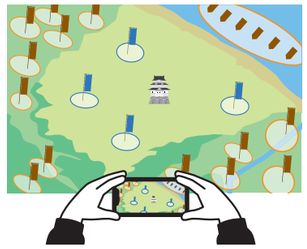
既存スポーツ施設の適切な管理運営や新たなスポーツ施設の整備に向け、公民連携の視点も踏まえた小田原市のスポーツ施設のあり方を検討しています。

観光

## 石垣山一夜城の魅力発信事業

### スマホをかざせば戦国時代にタイムスリップ

天正18（1590）年の小田原合戦の様子をＣＧ化し、ＡＲ技術を活用して石垣山一夜城跡などで見ることができるようになります。また、石垣山一夜城のさまざまな魅力をコンテンツ化し、誘客やその歴史的な理解の促進を図ります。



環境

## ゼロカーボン・デジタルタウンの創造

### 環境に優しく、住みやすい未来のまち

本市の「2050年脱炭素社会実現」に向けた取り組みを大きく加速させるため、2030年を目標に「ゼロカーボン」と「豊かな暮らし」との両立を最先端のデジタル技術によって実現する新しいモデルタウンの創造に取り組んでいます。

環境

## ごみ回収拠点の設置と回収日の増加

### 資源に生まれ変わるチャンスを増やそう

「資源ごみの回収拠点の設置」と「かん類・びん類の月２回収集」を実施し、家庭の資源ごみが出しやすくなる環境づくりを整備することにより、分別の徹底と資源化の更なる推進を図ります。

防災

## 市民通報アプリなど位置情報を市の防災対策に活用

### いざという時もまち全体で見守ります

市民通報アプリや施設管理システムなど、位置情報を持ったデータを地図データに表示して、市の防災対策として災害時の有効活用を進めます。

環境

## いろいろな使い方ができる地域ポイントサービス事業

### エコな活動やボランティア活動などでお買い物がお得に

市内での買い物、社会貢献活動などでポイントを付与し、買い物や体験サービスで使えるポイントサービス事業を行います。また、PTAなど団体でポイントを貯めて、活動に役立てることも可能にします。

# 取り組み年表

## 2021年（令和3年）

### これまでの取り組みを年表にまとめました

2021年３月に2030ロードマップを策定し、2022年3月にはそれを引き継ぐ第６次小田原市総合計画「2030ロードマップ1.0」を策定しました。2030年に向けた、ロードマップのこれまでの歩みをご紹介します。

2030 ニセンサンジュウ ロードマップ RM Start!!

2030ロードマップ

※年表内の□数字は下の写真番号です

**4月**
- 子ども家庭総合支援拠点の設置 1
- 児童生徒一人一台の学習用端末の活用を開始 2

**6月**
- 酒匂川スポーツ広場第２サッカー場芝生化の実施 3

**7月**
- Pick Up A おだわらイノベーションラボオープン 4
- 旧酒匂市民集会施設用地の活用

**8月**
- 小田原市観光交流センターオープン 5
- 小田原市民会館閉館 6
- Pick Up G （11ページで紹介）「小田原市自治会総連合、小田原箱根商工会議所及び小田原市による防災に関する包括連携協定」を締結

**9月**
- ミナカ小田原と小田原駅東口駐車場を接続するお城通り地区再開発事業連絡通路の開通 7
- 新玉小学校の内装木質化改修を実施 8
- 小田原市被災者生活再建支援制度の創設
- 市内通学路の安全点検を実施
- 小田原三の丸ホール開館 9

**10月**
- 旧松本剛吉別邸及び皆春荘の一般公開を再開

## 公民連携・若者女性活躍

Pick Up A

### 「おだわらイノベーションラボ」から新たなまちづくりを

小田原市では新しいまちづくりの手法として、さまざまな知見やノウハウ、活力を持つ方々との連携を加速させています。それは公×民のメリットを生かした連携にとどまらず、若者や女性の視点から生まれる柔軟な発想も、まちづくりにつなげようという考えです。

#### 新たな連携拠点を開設

多様な主体が集い交流することにより、新たなまちづくりにつなげるため公民連携・若者女性活躍の拠点として、2021年7月、ミナカ小田原に「おだわらイノベーションラボ」を開設しました。おだわらイノベーションラボでは各種連携相談のほか、イベントやコワーキングなどの各スペースが設けられ、さまざまなコラボレーション

などが生まれています。

#### 多様な連携がはじまる

企業や大学などとの連携を推進し、質の高い行政サービスの提供を図るため、民間提案制度の拡充、包括連携協定（※）の推進などにより、公民連携の取り組みを進めています。

※近年の包括連携協定締結企業・団体など…
2021～▶▶キリンホールディングス㈱、富士フイルム㈱、東京大学大学院情報学環、日本電気㈱、あいおいニッセイ同和損害保険㈱／2022～▶▶中北薬品㈱、㈱博報堂、小田原ガス㈱・東京ガス㈱／2023～▶▶富士急湘南バス㈱、日本交通横浜㈱・GO㈱、かながわ西湘農業協同組合、㈱湘南ベルマーレフットサルクラブ、箱根モビリティサービス㈱、大塚製薬㈱　（2023年9月末時点）

また、SDGsの達成に向けて、おだわらSDGsパートナーと連携して、次世代に対するSDGsの普及啓発活動に取り組んでいます。

#### 活躍のフィールドは幅広く多様に

若者や女性のアイデアや意見をまちづくりに生かし、年齢、性別に関わらず、チャレンジできる環境整備を進めています。若者のアイデアを具現化する「おだわら若者応援コンペティション」や、志の高い若者を称える「おだわらMIRAIアワード」を実施しています。

ほかにも女性が活躍する仕組みなどを積極的に取り入れている市内企業を「女性活躍推進優良企業」として認定する「小田原Lエール」も継続しています。

USER'S VOICE

**㈱湘南ベルマーレフットサルクラブ**
**広報担当 湯澤（ゆざわ） 暁（あきら） さん**

㈱湘南ベルマーレフットサルクラブはプロチームとしての競技性に加え、事業性と社会性にも目を向けた活動を展開しています。ホームタウンでもある小田原市とはスポーツや観光の振興を図ろうという包括連携協定を締結させていただいたほか、おだわら SDGs パートナーにもなって試合会場でのコラボレーションイベントなどを行っています。

おだわらイノベーションラボは駅から近いスペースとして、Ｆリーグや市内外の関係者の方との打ち合わせ、事務所ではできない取材対応や撮影などで活用しています。集中したいとき、コミュニケーションが必要な際の活用など、おだわらイノベーションラボの環境は大きな魅力です。

多くの方々とのコラボレーションを含め、ここから生まれるおもしろいこと、社会課題に向き合った連携など、今後のチーム活動にも注目してもらえたらうれしいです。

㈱湘南ベルマーレフットサルクラブ

発想とアイデア満載！

**公民連携で新たな「美味（おい）しい」も誕生しています！**

**キリン氷結＋湘南潮彩レモン（2022年3月～）▶▶**

**JAかながわ西湘×キリンビール㈱×小田原市**
キリンホールディングス㈱との包括連携協定から生まれたコラボ商品。ご当地レモン PR の一環として氷結レモンに、もぎたてを“追いレモン”したスッキリ感が人気の酎ハイ。

**おだわら あんこうカレー（2022年11月～）▶▶**

**小田原地魚大作戦協議会×小田原市**
小田原漁港で秘かに水揚げされてきた「春のアンコウ」。冬の鍋だけではないアンコウの美味しさを知る漁師のレシピをヒントに、試行錯誤を重ねて誕生！

**梅ジャムデニッシュ（2023年5月、6月）▶▶**

**山崎製パン㈱×JAかながわ西湘×小田原市**
３者の若手職員による連携プロジェクトチームが共同開発した商品。曽我梅林などで収穫された梅のピューレ入りジャムと、ミルクホイップの２層仕立てで風味を表現。

**港の飯どろぼう地魚なめろう＆港のおしゃれ番長地魚カルパッチョ（2021年11月～）▶▶**

**小田原地魚大作戦協議会×小田原市**
漁業関係者や漁港周辺の飲食店などによる低利用魚の「美味しい利活用」。誕生したのは地魚に特製味噌を和えた「なめろう」と特製ソースで頂くカルパッチョ。

**小田原産和栗ジェラート（2022 年 11 月～）▶▶**

**小田原産和栗ジェラート**
小田原市と３者の公民による「農福連携」で誕生。小田原産の希少な栗を 100% 使用し、栗の収穫や選別、中身のくり抜き作業を障がい者が担うなど、誕生までの物語も味わえる逸品。

2021年（令和3年）　2022年（令和4年）

2030ロードマップ　第6次小田原市総合計画「2030ロードマップ1.0」

- 11月　Pick Up B　新病院の設計に着手
- 12月　新玉小学校に地域活動の場を整備・供用開始
- 3月　小田原駅前にデジタルサイネージを設置 10
- 4月　国府津駅自転車駐車場の供用開始 11
- Pick Up C　デジタル田園都市国家構想推進交付金（デジタル実装タイプType1）の採択
- 5月　第75回小田原市美術展覧会の開催（三の丸ホール初）12
- 6月　スイミングスクールでの水泳授業の実施 13
- 久野地区地区計画の都市計画決定（JT小田原工場跡地）
- Workcation House（ワーケーションハウス）Uオープン 14
- 三の丸小学校校庭の芝生化 15
- ドッグラン開設（上府中公園）16
- 物価高騰による学校給食材料費増加分を補てん 17
- デジ田甲子園神奈川県代表に選出
- 8月　旧市民会館跡地等の活用に関する意見交換会の開催
- 住民窓口等でのキャッシュレス決済サービス開始
- 9月　おだわらSDGsデイ開催 18
- Work Place Market（ワークプレイスマーケット）ARUYO（アルヨ）ODAWARA（オダワラ）オープン 19
- 10月　おだわら成年後見支援センターオープン
- 保護者連絡配信システム「さくら連絡網」の導入
- 「曽我梅林の梅酒」が「全国梅酒品評会2022」で金賞を初受賞
- 電子図書館サービスの開始

## 医療・福祉

# 新病院の整備が進んでいます

Pick Up B

### 災害に強く快適に。生まれ変わる新病院

2026年の開院を目指し事業が進んでいる新たな市立病院は、現代に求められるさまざまな利便性を追求した「県西を支える医療拠点」となります。

建物は今後想定される大地震に対応するのはもちろん、発災直後も診療や検査が継続できるよう「ハイグレード免震構造」を採用。建物自体は9階建ですが、超高層建築と同様の高度な構造計算を行い、より安全・安心に配慮した「災害に強い病院」となります。

また新病院は広い病室も実現します。現状、全体のベッド（417床）の約半分を占める6床室をなくし、個室と4床室とすることで、1床当たりの空間は現在の5．3㎡から約9㎡となります。トイレは全室、シャワーは全個室に配置し、プライバシー確保と療養環境の向上も図っていきます。ほかにも退院後の療養を見据えた入院時説明、医療機関の受診方法や療養上の困りごとの各種相談など総合的に患者さんをサポートする専用ブース（仮称 地域連携・患者支援センター）を設置。手術支援ロボットの導入やリハビリ機能の充実、口腔外科などの診療科の増設等により、医療の質と患者さんのQOLの向上に取り組んでいきます。

このほかにも外来などで来院してから

の時間を快適に過ごしていただけるよう、医療DXを活用した待ち時間の短縮を進めるとともに、待合室とは別のカフェや図書コーナーを設けます。

### 広域な医療対応も

新病院の屋上にはヘリポートも完備します。大学病院への緊急搬送に加え、箱根や湯河原、真鶴などからの緊急受入れも積極的に対応。さらにさまざまな高度医療機器の導入などにより、広域的な総合医療拠点としての役割を担っていきます。

**トップの視点から一。**

小田原市
病院事業管理者
川口竹男 病院長

がんや小児・周産期医療、救命救急などの分野で市立病院が担ってきた、県西医療の『最後の砦』という役割を継続し、さらに機能向上させた拠点を目指します。医師やスタッフの働く環境にも配慮して、雇用の質を高め、それが巡って質の高い医療サービスとなる。地域の医療を地域で完結させられるよう多角的に整備を進めていきたいと考えています。

## デジタルまちづくり

# デジタルの力で暮らしをもっと便利に

Pick Up C

### 国のサポートを積極的に活用

「デジタル技術×データ活用」という掛け合わせによる改善や変革を意味する「DX」（デジタル・トランスフォーメーションの略）。小田原市ではDXを日々の暮らしや防災、観光、経済などに取り入れようとする施策に取り組んでいます。さまざまな事業の推進にあたり、活用しているのが国の「デジタル田園都市国家構想交付金」です。小田原市では2022年と2023年に提案事業が採択を受けたことで、多彩な分野でのまちづくりが可能となりました。

2022年度は採択額が約2億1千万円となり、これは市町村では全国トップとなりました。交付金を活用し、①リアルタイムの災害情報をいち早く発信する仕組みの構築、②市役所の申請手続きをシンプルにした「書かない窓口」とAIによる事前申請サービス、③市の文化財をWEB上で公開する「デジタルミュージアム創設」の事業を実施しました。

2023年も約4億5千万円の採択を受け、④石垣山一夜城の小田原合戦（1590年）の様子をCGやAR技術で楽しむ「魅力発信事業」、⑤地域ポイントアプリと観光アプリを連動させるなど、「まち」と「ひと」、多拠点をつなげるまちづくり事業の導入を進めています。

**デジタル田園都市国家構想交付金**

小田原市は他都市の優良モデル活用事業「TYPE1」、データ連携基盤を活用した先駆的な事業「TYPE3」で採択を受けています

**2022年度▶▶採択総額2億979万1000円※実装完了**

- 災害に備える！　①ワイヤレスセンサー等を用いた住民参加型警戒・避難システム…TYPE1
- 書かない窓口を実現！　②AIなどの活用による住民異動手続きのスマート化…TYPE1
- デジタルで博物館見学！　③小田原市デジタルミュージアム創設事業…TYPE1

**2023年度▶▶採択総額4億4536万1000円※順次導入予定**

- 一夜城のさまざまな魅力をコンテンツ化！　④小田原合戦を活用した石垣山一夜城の魅力発信事業…TYPE1
- 「まち」と「ひと」をつなげる新アプリ！　⑤『デジタルブラブラ城下町』をハブとした多拠点ネットワーク型まちづくり…TYPE3

### デジタル技術で「地域幸福度」向上を

DXによるさまざまなまちづくりを進めるうえで小田原市が考えているのは、市民の皆さんの「Well-Being」（地域幸福度）の向上です。次年度以降も「Well-Being」の向上を目指し、デジタル化がもたらす暮らしの利便性を追求し、持続可能なまちづくり施策を検討していきます。

**デジ田TOPIC**

**デジタルミュージアムオープン**

小田原の文化財や歴史的資料をデジタル化し、広く発信する「おだわらデジタルミュージアム」。ここでは3Dで360度あらゆる角度から見ることができる資料や、VR体験で訪れる偉人ゆかりの邸宅、AI技術によりカラー化された昔のモノクロ写真、キッズミュージアムなどが楽しめます。

3Dの小田原城模型は自在に動かし、細かなつくりを堪能できる

**11月**

- Pick Up D　脱炭素先行地域に選定
- 「小田原eスポーツ～出陣式～」を開催 20

**12月**

- ヤッホーみかんまつりの開催 21
- 市民通報アプリ「おだわら忍報」の運用開始 22
- 井細田駅のバリアフリー化 23
- 大窪小学校に地域活動の場を整備・供用開始
- Pick Up E　（仮称）橘地域認定こども園整備基本計画の策定

**1月**

- 「書かない窓口」の開始 24

**2月**

- 防災アプリ「おだわら防災ナビ」の運用開始 25
- 電動アシスト自転車のシェアリングサービス（HELLO CYCLING）の開始 26

**3月**

- 「曽我の梅干し」が文化庁の「100年フード」に認定 28
- 県内自治体で唯一「健康経営優良法人」に認定（4年連続） 29
- Pick Up F　株式会社エス・エム・ジェイ（SMITH JAPAN）の本社市内移転
- EVカーシェアリングの導入 30
- 魅力ある公園づくり（街区公園再整備計画の策定）

## 環境・エネルギー　Pick Up D

# 2050年 ゼロカーボンを目指して

### 「エネ＋経済の好循環」が市街地活性のキーワード

国が目指す2050年ゼロカーボンに向け、先駆的に取り組むエリア「脱炭素先行地域」。環境省によるモデル地域の募集に対し、小田原市と東京電力パワーグリッド㈱小田原支社の提案が選定されました（2022年11月時点で全国46件）。

市と東電ＰＧ（パワーグリッド）は「小田原駅東口エリア」と「久野地区生活拠点エリア」で、脱炭素×市街地活性化に向けた事業を展開していきます。エリア内の商店街や基幹病院などでは、省エネ化やカーボンフリー電力への切り替えを促進するとともに、太陽光発電の導入により、地産再エネを地域で消費する仕組みを構築。ほかにも公民連携によるEVの活用と、それによる観光回遊を促す「EV宿場町」を目指す取り組みなど、経済を回しながら、身近な暮らしから「$CO_2$ゼロ」を推進します。

## 教育・子育て　Pick Up E

# 小田原らしさを生かした認定こども園

### 橘エリアで2026年4月に開園へ

橘地域に保育所がなく、多くの子育て世帯は近隣町の施設を利用していた状況や、公立幼稚園の園児減少を踏まえ、小田原市が進めるのは「幼稚園」と「保育所」の機能を併せ持つ『認定こども園』の整備。今回は小田原らしさとして、市内産の木材を多く用いた環境に優しい施設を下中幼稚園の敷地に整備します。

子どもたちが過ごす園内は木の香りやぬくもりに包まれ、地域との交流や豊かな自然と触れ合える教育。子どもの主体性をハードとソフトの両面から育み、「こどもまんなか」の子育て環境の整備を進めます。

**橘地域認定こども園コンセプト**

子ども主体の教育・保育の実践を通じ、主体性や創造性などを育む質の高い幼児教育・保育を提供する。

橘地域の恵まれた自然と触れ合い、木のぬくもりに包まれながら、地域のひとたちや学校と連携し、地域に根差した活動を行う。

## 地域経済　Pick Up F

# 企業から選ばれるまちへ

### 「小田原」を新たな拠点に選んだ訳

中嶋一男代表取締役

地域活性や雇用機会を生み出そうと、市が打ち出している企業誘致の取り組み。さまざまな自治体が同様にPRする中、世界的なアウトドア関連ギアを取り扱う㈱エス・エム・ジェイ（SMITH JAPAN（スミス ジャパン））が2023年3月、小田原市に本社機能を移転しました。

県央地域にあった旧社屋が手狭になり、移転の検討が始まったのは5年ほど前。中嶋一男代表取締役は「県内外を候補にしましたが、都心からアクセスが良い場所で、やはりスタッフのことを考えると都市機能が充実している街が理想でした。更に、当社は『SMITH』ブランドを扱う代理店なので、自然環境豊かな、商品と親和性のある環境を求めていて、それらの条件だと小田原が最適でした」。

太田智樹さん

一方で、移転業務に携わった太田智樹さんは別の視点から“決め手”を振り返ります。「補助金などで誘致を進めている自治体は多いのですが、とにかく申請が煩雑で分かりづらかったんです。小田原市は手続きもシンプルで、とても助かりました」。

家賃補助に加え、「これは本当にメリットがあった」（太田さん）というリノベーション補助金も活用して本社屋2階には開放感あるショールームもレイアウト。関係者の評判も上々で、「ブランドの見せ方も格段に向上しましたし、SMITHのかっこよさをこれまで以上に発信していけそう」と中嶋代表は期待を話しています。

**AFTER TALK**

経営者の目線で行くと金融機関の出先窓口があるのが便利とかあるけど、美味（お）しい飲食店が多いのも小田原の魅力なんだよ。巡礼街道に出れば何でもあるし、とても暮らしやすいね。（中嶋代表）、山も海も、川だって近いんで、商品のテストには最適な環境。将来的には小田原に直営店も構えたいですね。今後もこの場所で発展できるよう、きちんと土台をつくっていきます。（太田さん）

SMITH

株式会社
エス・エム・ジェイ
（SMITH JAPAN）

スノースポーツのゴーグル、ヘルメットで世界シェアNo.1、マウンテンバイク、フィッシングなどのギアも扱うアメリカ発ブランド「SMITH」の輸入総代理店として1997年に設立。日本国内にもファンは多く、最新ギアなど4,000点以上を取り扱っている。

**3月**

Pick Up G

- 小田原食品衛生協会と災害協定を締結
- 久野地区自治会連合会、株式会社ミクニ小田原事業所、市の3者で災害協定を締結
- 小田原市のスマートシティサービスがスタート 31
- 第2期小田原市教育大綱及び第4期小田原市教育振興基本計画を策定 32
- 第2期小田原市健康増進計画の策定

**4月**

- 「おだわらデジタルミュージアム」オープン
- 「みんなで消防士さんを応援しよう！プロジェクト」キックオフイベント開催 33

Pick Up C

- 無線端末を使用した「おだわらっ子見守りサービス」の導入 34
- （8ページで紹介）デジタル田園都市国家構想交付金（デジタル実装タイプType1及びType3）の採択

**5月**

- 空家等対策に関する協定の締結
- 北條五代祭り過去最多の来場者約26万人 35

**6月**

- 4年ぶり第30回クリーンさかわ（酒匂川一斉清掃）の実施
- 分身ロボット「OriHime（オリヒメ）」を市役所障がい福祉課窓口に設置 36
- 市立病院が「令和5年度自治体立優良病院総務大臣表彰」を受賞

**7月**

- 活躍する若者を表彰「おだわらMIRAIアワード」創設！ 37
- SOGABLENDオープン 38
- 過去最高！令和4年の入込観光客数と観光消費総額
- ペイジー口座振替受付サービスの開始（国民健康保険料など）

**8月**

- おだわら若者応援コンペティションの実施 39
- 4年ぶりの酒匂川花火大会・小田原みなとまつりの開催 40

**9月**

Pick Up H

- 「相乗りタクシー」「タクシー・路線バス共通助成券」の実証事業を開始

Continue…

## 防災・減災

Pick Up G

# 「災害に強いまち」小田原に向け災害協定を締結

### 「地域のつながり」で災害に強い小田原へ

これまで小田原市は地方公共団体や民間企業600団体以上と100件以上の災害協定を締結していますが、2021年8月、小田原市自治会総連合、小田原箱根商工会議所と新たに「防災に関する包括連携協定」を結びました。

昨今の自然災害や、今後想定される大規模地震などに対し、幅広くまちづくりに関わる人が「地域の一員」として災害への備えやいざという時の体制を持つことが大切です。今回の協定は、我がまちの災害対応を「地域のつながり」で乗り越えるための取り組みとなります。

住民組織、経済団体との連携が組まれて以降、多くの自治会や民間企業との災害協定を結んできました。災害時の地域支援や協力体制はもちろん、地域特性や民間の専門分野、メリットなどを生かした具体的な内容も明記。各分野の防災・災害支援パーツを組み合わせ、「災害に立ち向かう小田原」を構築していきます。

**関係者インタビュー**

株式会社ミクニ小田原事業所▶▶

**災害時における協力体制の確保に関する協定**

災害時における敷地等の提供といった協定打診を快諾したミクニ小田原事業所。2024年は小田原事業所稼働から80年。「市や地域とともに歩んできた企業として可能な限り支援体制を考えていきたい」（小野間さん）。「車で移動しなくてはいけない方、ペット連れの方など、公共の避難場所に行けない際の避難場所として受け入れ態勢を整えていきます」（尾藤さん）

コーポレート本部
小野間博さん（左）
尾藤栄治さん（右）

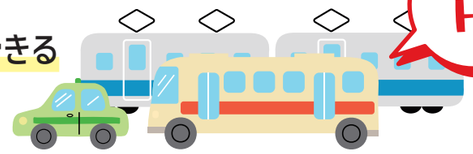
**2021年度以降に締結した災害協定**※2023年8月現在

| 協定名 | 協定団体・企業 |
|---|---|
| 災害時における要配慮者等の緊急受入に関する基本協定 | 社会福祉法人湖成会 |
| 災害時避難施設に係る情報の提供に関する協定 | 株式会社バカン |
| 災害時における地域支援の協力に関する協定 | 株式会社ジェイコム湘南・神奈川　湘南局 |
| 災害時における帰宅困難者支援に関する協定 | 万葉倶楽部株式会社 |
| 小田原市自治会総連合と小田原箱根商工会議所及び小田原市による防災に関する包括連携協定 | 小田原市自治会総連合 小田原箱根商工会議所 |
| 災害時における物資の調達に関する協定 | 足柄地区自治会連合会 株式会社小田原百貨店 |
| 災害時における物資の調達に関する協定 | 芦子地区自治会連合会 久野地区自治会連合会 ヤオマサ株式会社 |
| 災害時における物資（ユニットハウス等）の供給に関する協定 | 三協フロンテア株式会社 |
| 災害時における協力体制の確保に関する協定 | 第62区風祭自治会 株式会社鈴廣蒲鉾本店 |
| 災害時における協力体制の確保に関する協定 | 久野地区自治会連合会 株式会社ミクニ小田原事業所 |
| 災害時におけるレンタル資機材の提供に関する協定 | 有限会社レントオール小田原 |
| 災害時における避難所等の食品衛生の協力に関する協定 | 小田原食品衛生協会 |
| 風水害に備えた一時避難施設としての使用に関する協定 | 万年地区自治会連合会 日本交通横浜株式会社小田原営業所 |
| 災害時における協力体制の確保に関する協定 | 大窪地区自治会連合会 株式会社小田原百貨店 |
| 災害時における物資の調達に関する協定 | 桜井地区自治会連合会 株式会社小田原百貨店 |

## まちづくり

Pick Up H

# 誰もが快適に移動することのできる交通体系の構築を目指して



### 地域公共交通計画を策定中

鉄道や路線バスなどの既存の公共交通を最大限活用した上で、民間の送迎サービスなど地域の多様な輸送資源を総動員し、AIや自動運転といった最新技術も導入していくことで、誰もが快適に移動することのできる交通体系の構築を目指し、新計画「小田原市地域公共交通計画」の策定に取り組んでいます（令和6年3月策定予定）。

新計画では、公共交通の現状や社会情勢の変化に伴う市民の移動ニーズの多様化などを踏まえ、既存の公共交通の維持・確保を基本としつつ、路線バスが日中に運行しない時間帯を補完する移動支援や、多様な移動ニーズへの対応などを、本市の地域公共交通の方向性としています。

また、バス路線を維持する運行補助や鉄道事業者への増発要望のほか、小学生対象の「バスの乗り方教室」などを引き続き取り組むほか、脱炭素社会の実現に資する移動手段の導入を推進していきます。

EVバス（富士急湘南バス）

### 新たな移動支援の実証事業を開始

新計画の策定における市民アンケート等により、日常の移動支援のニーズが高かったことから、地域の実情に応じた移動支援策の位置付けを検討するため、11月から令和6年3月まで、新たな移動支援策「おだタク・おだチケ実証事業」を実施し、効果を検証します。

路線バスの大切さ、親しみを感じてもらいたい！

**バスの乗り方教室**　話し・箱根登山バス㈱

将来のバス利用者である児童に交通安全やマナーを知ってもらおうと、市内バス事業者は乗り方教室を開催しています。箱根登山バスでは東町の本社に例年小学2年生を招き、クイズや実車両での乗降体験などでバスの利用法を伝えています。このほか工場見学や洗車体験、時にはバスとの綱引きイベントなど、親しみを持ってもらい、「地域の移動手段」としての必要性を伝えています。

**おだタク・おだチケ実証事業始まります**

◆相乗りタクシー「おだタク」の運行
運行区間：前羽地区（町屋公民館）⇔国府津駅
運賃：1便につき600円 ※最大4人で相乗り

◆タクシー・路線バス共通助成券「おだチケ」の配布
対象者：曽我・下曽我・国府津・前羽・橘北地区に在住の75歳以上で運転免許証を持っていない人
助成金額：12,000円分

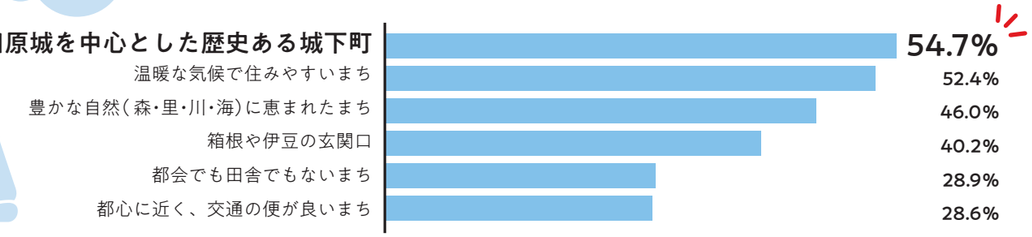
※詳しくは、広報小田原10月号で紹介しています。

# 取り組み内容の確認

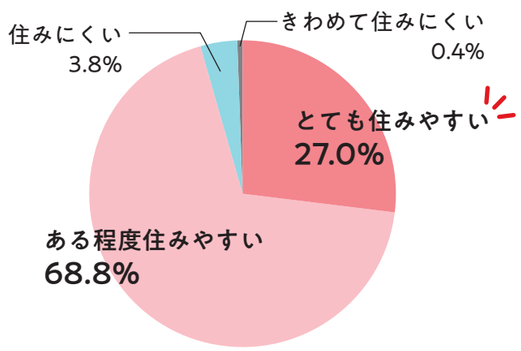
市民の皆さんが考える小田原のまちのイメージや、市が実施する取り組みに対する思いをきくため、市民3,000名を対象とする市民意識調査を実施するとともに、総合計画の進捗管理のため総合計画審議会による外部評価を行い、これまでの取り組みを検証しています。

## 市民意識調査の概要

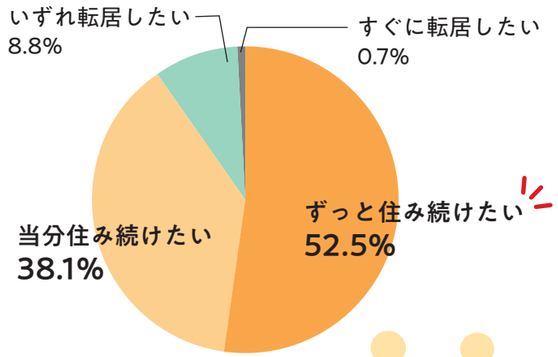
### 小田原市に対してどんなイメージを持っていますか？



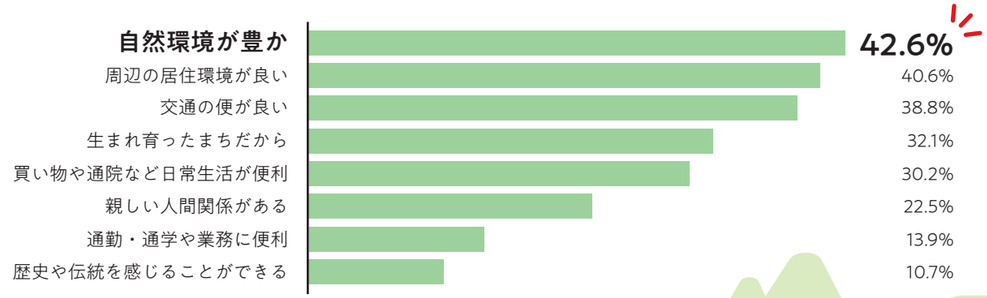

### 住みやすいまちですか？




### 今後も住み続けたいですか？




### 住み続けたい理由はなんですか？




### 効果的であると感じる施策（公民連携・若者女性活躍・デジタルまちづくり）

## 総合計画審議会による評価

小田原市総合計画審議会は、大学教授などの有識者、地域の事業者、各団体の代表者や公募市民など幅広い分野と年齢層により構成され、それぞれの立場から小田原市のまちづくりについて議論しています。

令和５年度は総合計画の２年目の年となることから、令和４年度の取り組みについて、市による内部評価を行い、その内容を踏まえ、総合計画審議会の委員皆さんによる外部評価を行っていただきました。

佐藤 萌々花（もも か）委員

審議会委員の中で、私は唯一の学生として参加しました。審議会の存在意義は、総合計画を市民目線に近づけることではないかと思います。そのため、等身大の自分の言葉、価値観で意見や評価を述べることが私の役割だと考えています。審議会でも、自分事として捉えることを意識していました。学生の意見が少しでも届く総合計画になるとうれしいです。

出石（いずいし） 稔（みのる） 会長

総合計画を実行していくのは市長です。市長は市民から選ばれた代表者ですから、自ら策定した総合計画を自身とこれを補佐する市職員が進行管理を行うことは、妥当と言えます。しかし、この内部評価による精緻な評価のみではなく、市民目線によるおおらかな評価も必要です。そこで、総合計画策定時に参与し、市民も加わる総合計画審議会で外部評価をして、内部評価とセットで進行管理することは、とても意義があることです。

## 第６次小田原市総合計画「2030ロードマップ1.0」とは

第６次小田原市総合計画「2030ロードマップ1.0」は、令和3（2021）年3月に策定した2030ロードマップを引き継ぎ、全ての市民が安心して快適に暮らし続けることができる「世界が憧れるまち“小田原”」の実現に向けた市政運営全般の取り組みを総合的にまとめた、令和12（2030）年に向けた小田原市の指針です。

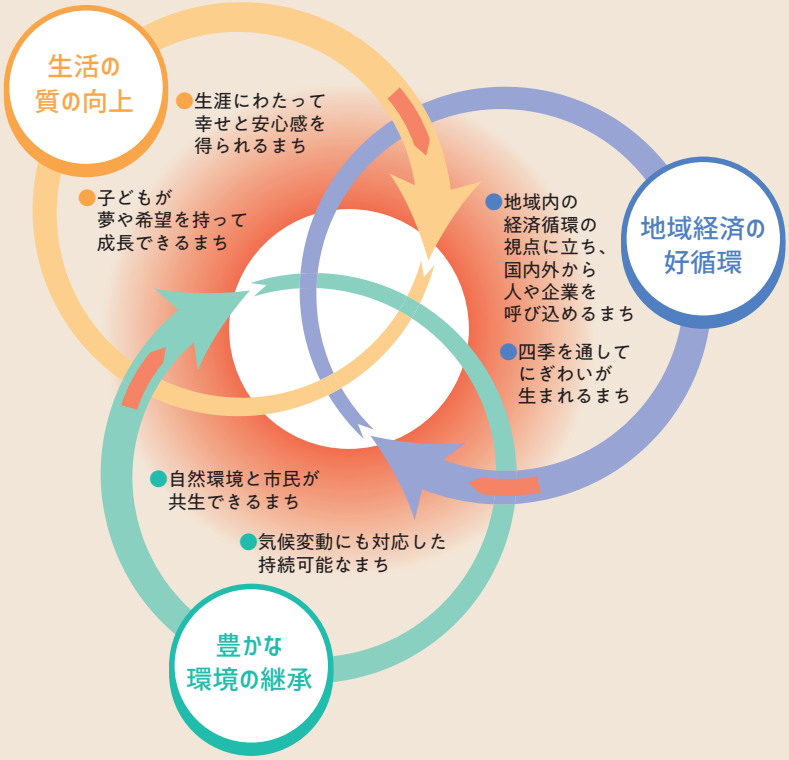
▲詳しくはこちら

将来都市像　世　界　が　憧　れ　る　ま　ち　小　田　原

将来都市像の実現に向け、SDGsの視点を踏まえつつ、「まちづくりの理念」に掲げた３つの目標を「まちづくりの目標」として定めます。

### 3つのまちづくりの目標

生活の質の向上
地域経済の好循環
豊かな環境の継承




### 7つの重点施策

**1 医療・福祉**
（1）安心の地域医療体制
（2）地域共生社会の実現
（3）健康寿命の延伸

**2 防災・減災**
（1）地域における国土強靭化の推進
（2）地域防災力の強化

**3 教育・子育て**
（1）質の高い学校教育
（2）子ども・子育て支援
（3）幼児教育・保育の質の向上

**4 地域経済**
（1）企業誘致の推進
（2）多様な働き方環境の整備
（3）地域資源を生かしたビジネス展開

**5 歴史・文化**
（1）歴史・文化資源の魅力向上による交流促進
（2）文化・スポーツを通じた地域活性化
（3）世界とつながる機会の創出

**6 環境・エネルギー**
（1）再生可能エネルギーの導入促進
（2）地域循環共生圏の構築と森づくり

**7 まちづくり**
（1）小田原駅・小田原城周辺のまちづくり
（2）地域特性を生かしたまちづくり

### 25の施策

1 地域福祉・多様性の尊重
2 高齢者福祉
3 障がい者福祉
4 健康づくり
5 地域医療
6 消防・救急
7 防災・減災
8 安全・安心
9 地域活動・市民活動
10 子ども・子育て支援
11 教育
12 働く場・働き方
13 商業・地場産業
14 農林業
15 水産業
16 観光
17 歴史資産
18 文化・スポーツ・生涯学習
19 脱炭素
20 自然共生・環境保全
21 資源循環・衛生美化
22 都市整備
23 住環境の形成
24 道路・交通
25 上下水道

### 3つの推進エンジン

1 行政経営
2 公民連携・若者女性活躍
3 デジタルまちづくり

広報小田原特別編 GROW2023年度版　発行：小田原市　編集：企画政策課　☎0465-33-1253
©小田原市2023